

(別表第1)

## サービス評価結果表

### サービス評価項目

(評価項目の構成)

#### I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

#### II. 家族との支え合い

#### III. 地域との支え合い

#### IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!  
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
 ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー  
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

#### 【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町3丁目8-15
訪問調査日	平成29年12月14日

#### 【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 14名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	8名	

#### ※事業所記入

事業所番号	_____
事業所名	グループホーム春の風
(ユニット名)	1階
記入者(管理者)	_____
氏名	徳森 利弘
自己評価作成日	平成29年11月29日

<p>【事業所理念】 ここにはぬくもりがあり喜びがあり笑顔がある</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 ・避難訓練の状況を動画撮影することにより、スタッフの動きを「見える化」することでスタッフ全員で改善点を考える機会をもつ。 ・地域消防団とのつながりがもてるようあいさつに出向き、GH春の風の事を知ってもらう。 【結果】 ・1月28日：地域の方やご家族にも協力していただき、地震災害時(夜間)を想定した避難訓練を実施。リアルにスタッフの動きや改善点がわかる様に動画撮影をした。今後のスタッフ研修・訓練に活用できるよう取り組んでいる最中である。避難判断基準・避難場所の見直し・2階ユニット歩行困難な方の搬送方法等、リアルな課題が見えてきている。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 事業所の母体は大洲市内で障害者支援施設を運営する社会福祉法人で、大きな法人組織の利点を活かし研修制度など職員が学ぶ機会を多く取り入れているため、職員は個々に認知症ケアに高い知識を持っている。利用者のその日その時その一瞬を大切にケアを行いたいという熱い心と、利用者の人生の最期までを温かい気持ちで包み込む優しさを感じる事業所である。職員が個々に持つアイデアを今後の運営に活かし、地域のケア拠点として活躍が楽しい事業所である。</p>
--	---	---

## 評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>I. その人らしい暮らしを支える</b>									
<b>(1) ケアマネジメント</b>									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	日頃の生活の中で言葉や行動から見い出せる思いや意向を引き出せる様努めている。	◎	/	○	日常生活を通じて利用者の希望を引き出せるように、できるだけ一人ひとりと対話する時間を持ち、「～だったよね」と反復しながら思いや記憶を引き出している。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	本人の理解度に応じ、家族や職員で情報を交換し、よりその人らしく生活できる様に努めている。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	家族や知人などの来所される方にさりげなく情報を聞き取り、職員間での情報伝達を行っている。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	介護記録に於いて本人の1日の過ごし方や言葉等また変わった言動があれば記録し連絡ノートでも共有している。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	カンファレンスや職員間での話し合い等で、固定観念的な考え方の無いよう、本人の思いがくみとれる様に努めている。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	本人や家族、知人、担当ケアマネ等からの聞き取りを行い新しい発見や変化を随時アセスメントに記録している。	/	/	○	利用者や家族、従前のサービス事業者からの聞き取りはもちろんであるが、何気ない行動やしぐさ、発言からこだわりを発見することも多く、その都度アセスメントを見直している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	日々の観察で状態を把握し過剰な介護にならないように努めている。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	生活上での状態観察や申し送りによりどのような時、場面において不安症状が出たか記録し情報伝達している。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	日々の関わりの中で解決方法を職員や家族とも話し合っている。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	各個人の入居者状況表により24時間の生活の過ごし方や体調の変化等詳細に記録し確認している。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	本人の意向をくみ取れるよう家族や職員間でも話し合い検討している。	/	/	○	家族から聞き取ったり日頃把握した情報をもとに、毎月のカンファレンスで利用者が必要としていることを利用者の視点で話し合うことができている。話し合いの内容は議事録で確認できる。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	家族や知人など、来所された時に、遠方の家族には電話や手紙で毎月状況報告を行い意向を確認し支援に繋げている。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	毎月カンファレンスを行い、本人がより良く暮らすためのサービス内容を明確にしている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	本人や家族からの情報をもとにカンファレンスでの意見交換によりアセスメントしケアプランを作成している。	/	/	/	毎月のカンファレンスで課題や日々のケアのあり方を話し合い、意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	職員は日々の過ごし方や課題を見出せる様に観察を行い本人・家族の意向を反映しプランを作成している。	◎	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	より重度にならないよう皆とホールで気分転換を図り、無理のない生活が送れるようなケアプランを作成している。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	地域での行事やイベントへの参加を促し家族と一緒に過ごせる時間も持てるような、計画にしている。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	業務日誌に最新のケアプランと一緒に綴じる事でいつでも目を通すことができ、計画内容が把握できる。	/	/	○	毎月のカンファレンスで介護計画の内容を共有し、業務日誌で最新の情報を常に確認しながら理解を深めている。毎月のカンファレンスでの状況確認や3か月ごとのモニタリングで確認を行い、日々の支援につなげている。支援した内容や利用者の様子、発言などを記録し、同時に気づきやアイデアを話し合い、前向きに取り組んでいけるように記録している。記録書は事業所独自で改善しながら、使いやすいものを工夫して作成している。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	3ヶ月毎のモニタリング、毎月のカンファレンスに於いて状況確認を行ない、変化の気づき等話し合う事で日々の支援に努めている。	/	/	○	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	業務日誌や入居者状況表を記入する事によって本人の言葉や行動に変化があった事など詳細に記録している。	/	/	○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	個々の日誌に日々の様子を記録し計画内容についても確認している。	/	/	○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	毎月のカンファレンス、3か月ごとのモニタリングによりプランの見直しを行っている。	/	/	○	基本的に3か月毎のモニタリングで介護計画の見直しを検討している。毎月のカンファレンスで現状確認を行っている。利用者の入院などによる暮らしの変化に応じて、随時家族などと話し合いの場を設け、新たな介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	ケアプランに沿って職員全員での統一した介護支援を行い現状の確認を行っている。	/	/	○	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	入退院、受診以外にも身体状態に変化が生じた場合は、家族と連絡を取り新たに計画を見直し作成している。	/	/	○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	月1回のカンファレンスに於いて話し合いを行っている。また、緊急性のある場合にはその都度話し合いの機会を持っている。	/	/	○	チームケアでの課題は毎月のカンファレンスで話し合っており、緊急案件があればその都度話し合いを行い、記録を取っている。参加できなかった職員も記録を確認し、押印して情報を共有している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	毎月のカンファレンスに於いて担当者からの発言、提案があり、否定的な言葉を使わず意見を出し合っている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	夜勤入りの職員以外は緊急な事がない限り参加できるよう前もって日時を設定し組まれている。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	内容整理、記録し回覧により確認を行っている。他のユニットにも回覧し現状把握できている。	/	/	◎	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	申し送りでも伝えているが、連絡ノートに記入し読んだらサインをし確認できるよう工夫をしている。	/	/	◎	利用者に関すること、家族とのやりとりなど、申し送りでの口頭伝達のほか、会議録、連絡ノートで伝達すべき内容を全職員に伝え、押印して情報を確実に共有している。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	申し送りの時間に伝えられない職員には業務の中で伝えられるよう努めている。時間のずれで口頭で伝えられないときは連絡ノート、回覧にて行っている。	◎	/	/	



項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にされた支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	一人一人に声かけ、その日の調子伺いをし本人の希望に添えられるよう努めている。	/	/	/	利用者のその日の暮らし方について、強制的に誘導するのではなく、一つ一つの場面で意向を伺うようにしている。また、利用者が事業所での生活を通じて楽しみを見いだせるように声かけや雰囲気づくりを行っている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	強制的にしてもらうのではなく、声かけにて参加の意向を伺っている。	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	本人の能力に合わせた支援を行い、危険な行為でなければ止めず本人の納得がいくように見守り介助を行っている。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にされた支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	一人一人のペースに合わせた支援を行い無理せず過ごせるよう努めている。	/	/	/	
		e	利用者の生き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	やりがいのある生活支援を目指し、お手伝いや趣味を生かすことや得意な事をして過ごしていただいている。	/	/	○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	日々の観察を行い、表情や発語を注意深く読み取り、本人の意向に沿った生活が出来るよう努めている。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にされた言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	◎	利用者様は人生の先輩である事を忘れずに接している。声掛けや態度等、自尊心を傷つけない様に心掛けている。職員研修を行い、上手な接し方等を学ぶ機会がある。	◎	◎	◎	「利用者は人生の先輩である」ということを基本的な考えとして持ち、毎月のカンファレンス時に勉強会を取り入れて学んでいる。当日の声かけの様子は優しく、丁寧であったが、時には慣れによる言葉遣いの荒さが気になることもあり、管理者が声かけを行って気づきを持つよう留意している。居室は利用者の専有の場所である理解ができおり、「お部屋に入らせてもらいますね」と声をかけている様子が見られた。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	◎	プライバシーを配慮し、トイレや衣類の汚れなどがあつた際は、耳元で声掛けをし、他者に分からないようにしている。	/	/	○	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮ながら介助を行っている。	◎	排泄時や入浴時などは特に声掛けや態度に注意し、利用者様が嫌な気持ちにならないように努めている。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専有の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	「失礼します」と一声かけてから出入りするように対応している。	/	/	○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	法人全体で守秘義務を遵守している。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けってもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	お手伝いをしてもらった際は、感謝の気持ちを必ず伝える様にしている。利用者様に教えていただく事も多々ある。	/	/	/	他利用者の様子が気になる利用者の発言によって、場の雰囲気が悪くなる前に配席や職員が間に入るといった介入で利用者同士の関係が円滑になるように配慮している。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	◎	利用者様同士が「今日も頑張ろうや」「お互い様よ」と声を掛けあっている姿をよく見かける。支え合うことで調和がとれていると感じる。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	◎	余暇活動では全員で楽しく行えるよう雰囲気作りをしたり、言葉かけを工夫したりしている。食事席やリビングの席も配慮しトラブルや孤立を防いでいる。	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	◎	トラブル時は職員が間に入って迅速に対応している。又、同じトラブルが起きない様に、職員間で情報のやり取りをして対応している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	ご家族や知人からの情報、生活歴をもとに把握している。得た情報はアセスメント表に記載している。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	ご家族・知人からの情報や、ご本人との会話から把握している。得た情報は職員間で共有している。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	行事に出向く際は、なるべくその地域出身の利用者様が行ける様に配慮している。ドライブでは本人と関係の深い場所に出掛けることもある。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	地域行事に参加したり、地域の方がボランティアに来てくださったりする。面会時にはゆっくりとお話が出来る様な雰囲気・環境作りを努めている。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	天気の良い日はテラスで余暇活動をしたり、散歩に出掛けたりはするが、行き先はマンネリ化してきている。	○	○	○	地域住民からも日常的に散歩する様子を微笑ましく見守っているという意見もあり、戸外に気軽に出かける様子が感じられる。重度の利用者も、室内だけでは感じられない気温の変化や景色の移り変わりを味わい、何より日光を浴びることを大切に、テラスで過ごす時間を日常的に設けている。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	△	外出支援は、職員・ご家族・知人対応のみである。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	法人内の別施設より車を借りて、車椅子でもドライブに行かれるように取り組んでいる。	/	/	○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	△	外出はご家族に協力してもらっている。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	◎	常に様子観察を行い、状態の変化を見落とさない様にしている。変わった事は個別記録に記入し、職員間での情報共有・相談し、より良いケアが出来る様に努めている。	/	/	/	できる、できそうな生活動作は一緒にしましょうという姿勢で、過度な介助を行わず共に楽しみながら支援している。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	◎	余暇活動を通して筋力維持が出来たり、口腔レクを組み込んだりしている。又、出来る範囲での機能訓練やお手伝いをしてもらい維持・向上に努めている。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	◎	ご本人が出来る事は無理のない範囲で行ってもらっている。日常生活を営む中で出来るような事を見つけ、一緒に行ったり、やりやすい様に介助したりしている。	◎	/	◎	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	◎	ご家族からの情報や、ご本人との会話で得た情報・生活歴から把握し、職員間で情報の共有をしている。	/	/	/	利用者の中には自分のペースで暮らしの中で趣味の時間を楽しむ人もいたり、食事前の挨拶を担当する利用者、家事を率先して行う利用者もいる。利用者の得意なことを見つけながら、発揮できる場面を提供できるように配慮している。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	◎	ご本人の得意な事や役割をみつけ、それを発揮出来る様に支援している。やりがいや充実感を感じていただけるように努めている。	◎	○	◎	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	○	地域の文化祭に見学に出掛けたり作品を出展している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	◎	衣類はご本人が着たいものを一緒に選んだり、好みを聞いたりしている。				身の回りのことを自分で行う人にはやってもらい、できないことを支援することが自然に行われている。衣類の汚れがあった利用者をさりげなく居室誘導し、清潔に身だしなみを整える様子が伺えた。散髪や衣替えは家族に協力してもらいながら支援している。重度の利用者も起床時には必ず整髪し、衣類に汚れはないか注視し、着替えが必要な場合はその都度対応するなど、清潔保持に努めている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	◎	ご本人の好みに合わせている。髪型を自分では整えられない方は、ご本人に見える様に鏡の前で職員が介助を行っている。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	◎	開かれた質問・閉ざされた質問を上手く使い分け、本人の意見を尊重しながら選べるように支援している。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	◎	定期的に衣替えをし、季節に応じた服装を楽しんでいる。外出時等は普段よりお洒落なものを本人と選ぶようにしてメリハリをつけている。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	◎	起床時に顔の清拭・整髪を毎日行っている。汚れは自尊心を傷つけない様な言葉を選び、個別で対応している。	◎	◎	◎	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	◎	定期的に来て頂いている美容店を利用されている。希望があれば別の所へ出向ける様に支援するが、今の所、皆様満足されている。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	◎	起床時には整髪を必ずし、衣類が汚れたらその都度交換する様にして、清潔保持に努めている。			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	日常生活の基本である食事は、メニューを考え作り、美味しく食べ片付けをする一連の行為を共に行うことの重要性を理解している。				献立は法人の栄養士が旬のものをふんだんに取り入れて作成している。食材は地元の商店を利用し、おやつなどの購入は利用者と同じ買い出しに出かけている。調理は経歴の長い調理員を配置し、減塩食や糖尿病食などへの対応や咀嚼や嚥下の状態に応じた形態の工夫まで細やかな配慮があり、普通食と同じように見栄えよく盛り付けられている。つくしのはかま取りなどの下ごしらえなど、できることを一緒に行っている。入居時に利用者の好みや鯖などのアレルギー等を把握して代替食材で対応したり、びわなどの季節の果物や旬の食材を取り入れている。こだわりの食器等を取り入れながら自由に使うことができる。職員は利用者の食事のペースを見守り声をかけたり、介助を行っており、食事は別に取っている。重度の利用者も他利用者と食事の準備をリビングで楽しみに待っている。献立のバランスなどは利用者の好みに応じてアレンジしたり、食に関するアドバイスを法人の栄養士に相談している。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	△	食材は準備してあるのでそれを調理する。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	△	認知症の進行もあり、以前は手伝いもあったが今はできていない。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	本人・家族からの情報をアセスメントしてカンファレンスなどをもとに職員間で共有している。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	アレルギー等を踏まえ、季節感を感じられる献立に旬の食材を取り入れている。			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしいような盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いづれどりの器の工夫等)	○	嚥下や咀嚼状態を見ながらキザミ食、ミキサー食にしたり、トロミを加えたりしている。盛り付けにも工夫している。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	入居時持って来られた方はそれを使い、他の方は施設の物を使っている。順次使いやすい物に。			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	見守りや介助が必要な方には職員が横に座り声かけをしながら介助を行い、ゆったりとした雰囲気づくりをしている。			△	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	ホールで食事を待つ間に調理の風景を見せたり、盛り付けは五感に訴えたものになっている。	◎		○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	毎日の献立は、栄養士が行っている。水分量や食事は個別に記録している。				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	3食の食量と水分量は記録し、必要量が摂取出来ない場合は飲み物を勧めたりしている。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	◎	栄養士が行っている。			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	毎晩、布巾とまな板の消毒を行い、まな板は肉用野菜用別々に使用している。冷蔵庫は調理師が定期的に掃除、点検を行っている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	口腔ケアの重要性は理解している。レクや食事前にバタカラ体操や早口言葉など取り入れている。	/	/	/	毎日口腔ケアの実施を確認し、義歯の不具合や口内炎などの訴え、発見があれば早期に歯科往診が受けられるように手配している。毎食後、歯磨きの声かけをして、できる人にはしてもらい、できないことを介助して口腔内の清潔保持を行っている。今後はセルフケアできる人も含めた利用者全員の口腔内の健康状況の確認を定期的に行い、より深い理解につながることを期待したい。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	義歯の不具合時には、歯科受診していただき残食の具合などでも状況判断している。	/	/	○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	利用者の、状態により見守りや介助をし、義歯は職員が管理している。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	週2回ポリデント洗浄を行い、除菌を行っている。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないよう、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	毎食後の歯磨き、うがいの声掛けを行い、本人の能力に応じて見守り介助を行っている。	/	/	○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	○	虫歯、歯茎の腫れ、義歯の不具合等は、家族に相談し歯科医へ受診したり、往診にも来て頂いている。	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	出来る限り自立出来るような支援方法について考えている。声掛けや対応の方法を工夫し、時間おきにトイレ誘導して失敗を無くすようにしている	/	/	/	排泄パターンに応じた声かけや誘導を行い、トイレでの自然排泄を基本に支援している。利用者の排泄の訴えに最大限対応してあげたいと、夜間のみパッド交換し、日勤帯から遅出の時間帯には懸命に利用者の意向に応え、排泄用品の必要性や適切性に関し、利用者や家族を交えた話し合いを行っている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	日々の介護の中で利用者さんに学び理解できている。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	排泄チェック表をつけ日々の状態変化を把握するようにしている。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	排泄チェック表でパターンを把握しタイミングを見ながら声かけやトイレ誘導を行い、トイレにて排泄ができるよう支援している。	◎	/	◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	トイレでの排泄が上手くいかない利用者には、尿意、便意の有無、場所の失見当識等要因を探り、声掛けや介助方法を工夫している。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	一人一人の排泄の間隔やパターンについて職員で把握確認し、さりげなく声かけを行い、誘導するようにしている。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるように支援している。	○	本人や家族とオムツの種類、使用時間帯等話し合い、本人に合ったものを使用するようにしている。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	一人一人の状態に合わせて、紙パンツやパット等を使用している。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	食べ物や飲み物で工夫をしたり、腹部マッサージを行ったり日中の体操に参加して頂いたりして排便を促すように支援している。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	○	希望の時間帯や回数を踏まえ入浴して頂いている。体調により入浴できない場合は清拭や足湯を行い清潔保持に努めている。	◎	/	○	概ねの利用時間帯があり、利用者の希望に沿いながら入浴支援している。利用者個々の好みに合わせたシャンプーなどを使用して、利用者が心地良く入浴できるよう配慮している。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	一人ひとりがゆったりと気持ちよく気分転換ができる様に留意し会話を楽しんで頂けるようにしている。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	更衣の着脱、洗身、洗顔、浴槽へ出入り等本人ができることは見守りにて対応している。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	その理由や背景を探り、声かけや介助の方法を工夫している。職員が交代し声掛けを行う事もある。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	入浴前には、バイタルチェックを行い顔色や表情を見て入浴中止したり、時間をおいて再度バイタルチェックを行っている。入浴後は必ず水分補給に努めている。	/	/	/	



項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	チェック表を使用し、一人一人の睡眠状態やパターンを把握している。	/	/	/	眠りの浅い利用者もいるが、日中の過ごし方や身体面や精神面の様子を見守り検討しながら、利用者個々のリズムを重視した支援に努めている。必要に応じて主治医に相談している。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	無理に睡眠を促さず、話しをしながらその人のペースで休んで頂ける様に支援している。眠れない理由や背景についても職員で話し合いを行い対策を考えている。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	日々の過ごし方、活動等を工夫し眠れない日が続くのであれば主治医と相談している。	/	/	/	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	本人の状態や希望によって休息のタイミングを考えて、居室で休まれる場合は明るさ、室温調整などを行っている。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	本人と一緒に手紙やハガキをポストに入れに行っている。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	必要に応じて支援を行っている。年賀状など。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	家族に電話したいと希望があれば電話して頂けるように支援している。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	本人に手渡し読んで頂けるよう支援している。本人の希望に合わせて電話や手紙等にて返信を行っている。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	電話の希望がある際は家族に説明し本人とお話できる様に支援している。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	少しでも持っている则ち安心出来る様子を見て理解できている。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	○	買い物や外食に出掛ける事でお金を使用する機会を作っている。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	近くのスーパー等に日頃より関わりを持つことで安心して買い物に行くことができる様にしている。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	利用者一人ひとりに合った方法を家族と相談しながら支援している。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	必要なものがある際には家族と相談し必要に応じて購入している。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	毎月、お手紙を送りその中に預り金や出納帳等のコピーを同封し確認して頂いている。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	家族が面会に来られた際、一緒に過ごして頂いたり近隣をお散歩されたりその時のニーズに対応できるように支援している。	◎	/	○	受診に関する支援や、自宅が気になる利用者の代わりに自宅の写真を撮ってくるなど、利用者や家族のその時々々のニーズに柔軟に取り組む姿勢を持っている。



項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	玄関にパンフレットや新聞を置き、ベンチを備えている。誰でも出入りできる様になっている。	◎	◎	◎	事業所は住宅地にあっても違和感ない建物で、周囲になじんでいる。植木をキレイに刈り込んだり、庭の手入れが行き届き、気軽に立ち寄りやすい。
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	リビングの壁には利用者さんの作品や写真を掲示したり、月によって壁画を変えたりしている。	◎	◎	◎	感染症対策も兼ね、空気清浄や湿度管理に配慮している。毎日清掃を丁寧に行っており、床やガラス窓など細部も清潔にしている。毎月季節感ある壁画を利用者と工夫して制作している。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	毎朝、晩モップ掛けや掃除機にて掃除を行っている。カーテン等も洗濯している。	/	/	/	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	クリスマスにはツリーを飾り、七夕には笹を飾るなど季節に応じた飾り付けを行っている。また、厨房が開放的になっているためご飯の臭いも感じられたり、窓を開ける事で季節の音が聞けたりしている。	/	/	/	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	リビング、ダイニング、居室など、利用者がその時に過ごしたい場所で過ごせるように支援している。	/	/	/	
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	○	トイレ、浴室等は共用空間から見えないような造りになっている。	/	/	/	
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	昔から使用していたものや、思い出の品などを持って来て頂き各居室に置いたり使用したりして頂いている。	◎	/	○	居室内の換気、温度、湿度の管理にも配慮し、使い慣れたものを自由に持ち込んでもらい居心地良く過ごしてもらっている。
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	洗濯物干し、たたみ、台拭き、花壇の水やり、畑の水やり等利用者さん一人一人にできることをして頂いている。	/	/	○	移動が安全に行えるよう環境を整備し、機能が維持できるように努めており、できることやわかることには過度な介助を控え、利用者自身で取り組んでもらっている。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	トイレがすぐ分かる様に、トイレの表示をしている。混乱や不安になりそうなものは、目につかないよう工夫している。	/	/	/	
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	新聞等は誰でも見れるようにしている。テラスやリビングに花瓶や鉢を置いており水やりをされる利用者もいる。	/	/	/	
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	玄関は夜間帯のみ施錠し日中は開錠している。年間研修にも参加し職員同士で共有し理解できている。	◎	x	○	鍵をかけないケアについて学びの機会を設け、理解に努めている。玄関は夜間帯のみ施錠し、日中は自由に出入りできる。不穏な状態が強いなど必要に応じた施錠は家族に理解も得ている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	入居時に説明し理解を得ている。	/	/	/	
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	玄関にチャイムや人が通ると感知するセンサーを設置している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	入居時の情報、入居後の情報をまとめ、個人ファイルにし職員全員が把握できるように努めている。	/	/	/	
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	毎朝、血圧・検温チェックを行い、記録し身体状態の変化にすぐ気づくことができる。	/	/	/	
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	少しでも、普段と違うところがあればすぐに主治医や訪問看護師と連携をとり対応する事が出来ている。	/	/	/	
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	入居時には、以前の受診状況を確認し本人、家族と相談したうえで専門医へ受診を行っている。	◎	/	/	
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	受診が必要な時には本人や家族と話し合い、かかりつけ医や専門医と連携を取り、直ぐ受診できる様に支援している。	/	/	/	
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	受診時、家族に同行して頂いたり職員が同行したり、受診の結果を共有している。家族が同行して頂ける際には医師へ生活の様子を紙面で渡している。	/	/	/	
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	入院時に情報提供を行ったり、その都度電話等にて連携を取っている。	/	/	/	
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	お見舞いに行き、本人や家族とお話し、相談員と情報交換を行っている。	/	/	/	
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	受診時には職員も一緒に付き添って医師より説明を伺っている。	/	/	/	
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	2週間に1回の往診と週1回の訪問看護が来所して状態観察している。気になる点や心配になる事などはその都度伝えて相談している。	/	/	/	
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	24時間いつでも連絡が着き対応可能な体制になっている。	/	/	/	
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	日頃の健康管理や医療面での相談、助言、対応をして頂いている。異常のあった場合にはすぐに状況報告し来て頂いている。	/	/	/	
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	△	薬情により用途、用量、目的などは理解できているが副作用についての理解は十分ではない。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	声に出し、本人確認し他のスタッフとの連携確認を行なっている。	/	/	/	
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	表情、バイタル等に変化が見られたら医師に相談し指示を仰いでいる。	/	/	/	
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	薬に変更があった場合は、スタッフには申し送りで伝達し家族様にも報告している。本人の状態確認も行ない、医師、看護師に伝えている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	入居時に、重度化し看取りの必要性が生じた場合における対応指針について説明し同意を得ている。随時、変更も可能という説明。	/	/	/	利用者や家族に終末期のあり方について意向を伺っている。最後は自宅で迎えたいという利用者や家族の希望を叶えた支援が行われたケースもある。状態に応じた話し合いの場を設け、方針を共有しながら支援し、利用者の最期に揺らぐ家族の精神的サポートの重要性も実感している。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	必要に応じてかかりつけ医師、家族、スタッフを交えた話し合いを設け支援内容、方針を検討している。	◎	/	○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	事業所の力量や体制が重度化や終末期を支えていけるかスタッフとも意見交換しながら見極めを行っている。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	事業所の力量について率直に説明している。対応方針についての理解、同意を得ている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	本人、家族、医師、看護師、スタッフそれぞれの思いが最後までその人らしく生きる事を共通認識している。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	家族の思いや心情をしっかり受け止め、コミュニケーションをとることに留意している。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	感染症の研修に参加しミーティングで話し合っている。おう吐物、処理用の準備物等は確保している。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	△	感染症のマニュアルを作成しているが、訓練は十分ではない。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	本部や外部から得た最新の情報を取り入れ、ミーティングなどで情報共有している。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	病院、施設等外部からの情報を得て予防対策を行っている。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	介助後、トイレ後、食事準備後、外出後等はこまめに手洗い、うがいの徹底を行っている。玄関先にも手指消毒液、マスクを用意している。	/	/	/	



項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>II. 家族との支え合い</b>									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	家族様の面会時には日常の様子をお話させて頂き、ご家族の意向を確認している。	/	/	/	家族会や事業所行事への参加を呼びかけ、家族が活動を共にする機会を設けている。担当職員が毎月お便りを送付し、来訪する機会が少ない家族にも事業所での生活を具体的に伝えるよう配慮している。運営上の事柄はその都度報告し、担当職員の異動は個別に伝えている。家族の面会時には声かけをし、要望などが気軽に発言できる関係を大切にしている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	リビングでお話して頂いたり、ゆっくりとお話しをされた方には自室にてお話しして頂いている。帰られる際には玄関までお見送りをさせて頂いている。	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	行事の案内は早めに行い、参加を呼び掛けている。	◎	/	○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	毎月、ご家族様にはご本人様の様子を記載したお便りを送付して見て頂いている。	◎	/	○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	○	必要と思われる情報は提供し不安な事や、要望があれば情報提供もしている。	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	家族や本人に対する思いや関係性の違いを把握し個々にあったサポートを行っている。	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	定期的な通信の際に伝えている。職員の異動については担当していた家族様には電話でお伝えしている。	○	/	○	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	○	行事に参加されている方、都合により参加できない方も居られ交流は難しいところもあるが何らかのきっかけで顔見知りになればと家族会への案内は続けている。	/	/	/	
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	リスクが伴う問題が生じた場合にはご家族様に説明し、本人にとって良い対応は何かを話し合っている。	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	家族様が面会に来られた時に現状報告や本人の要望等、会話ができる時間を持つように心掛けている。	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	契約時、管理者・計画作成担当者が同席し不安や疑問点が残らないよう説明している。制度上の変更時にも書面に記入し理解を図っている。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	精神面で施設での生活が困難になり退所となった事例では家族様や医療機関と十分に話し合い納得を得て治療に専念して頂いている。	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	契約時に重要事項説明書に明記し説明した上での同意をいただいている。また、料金改定時には書面にて改正点を分かる様に記載して、説明し同意を得ている。	/	/	/	



項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ.地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域:事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	設立前より地域に出向き、事業所の目的や役割などを説明して理解をいただいている。	/	◎	/	自治会の区長が世話役となって地域行事に参加したり、日常的に事業所周辺地域の散歩に出かけることで顔なじみになったり、庭の花の観賞に誘われる気軽な近所づきあいができている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	日常的な挨拶に心掛け、地域の敬老会、保育所から高校までの運動会等の行事への参加で、交流を図っている。また、地域交流室「ひだまり」を通して地域の方々との交流が図れている。	/	○	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	地域へ散歩等を通して顔なじみが増えてきている。避難訓練にも声かけする事で参加して頂いている。	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄ったり遊びに来たりしている。	◎	地域の方々が、浴室を利用して入浴して頂き、気軽に立ち寄って頂いている。フェスタにも来て頂いた。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	散歩時には挨拶を交わしたり、会話をしている。一部の方については、訪問して下さっている。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	ボランティアの方々が、利用者の生活充実が図れるよう、地域交流室「ひだまり」を活用して、体操、音楽療法、紙芝居、合奏等で支援して頂いている。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	利用者一人一人の暮らし方や好みを理解し、外出行事等の際には楽しんで頂いている。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	地元の公民館に利用者の俳句や習字を展示して地域の方々に見て頂く機会を作っている。また、「春の風フェスタ」の祭りの際には予め飲食店やコンビニ等にポスターをはり、理解に努めている。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	会議には、毎回、利用者家族、地域の方々、市役所、他施設の方を中心に構成している。	×	/	△	運営推進会議は利用者や家族、地域住民に参加を呼びかけ、毎回参加協力を得ている。参加する家族が固定化しており、取組みが伝え切れていない。幅広い参加者の協力を得て、会議の意義や様子を具体的に伝える工夫が必要だと気づきを持っており、今後の取組みに期待したい。会議では現況報告のほか、地域の情報交換など有意義な話し合いの場となっている。出された意見や情報を運営に反映することで活かしている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	運営推進会議では、現状報告、活動報告、研修報告ヒヤリハットの報告を中心に進めており、推進メンバーからの質疑応答、情報交換により充実を図っている。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	運営推進会議では、推進メンバーからの貴重な意見をいただき困難事例等では、適切なアドバイスをいただいている。取り組みについて状況報告している。	/	○	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	毎月、最終火曜日の14時より開催しており、推進メンバーにも理解して頂いており、ほぼ参加できている。	/	◎	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	大洲市へもFAXで報告し議事録は毎回ファイルしてスタッフが閲覧できるようにしている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>IV.より良い支援を行うための運営体制</b>									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	理念のポイントでもある「ぬくもり、喜び、笑顔」を利用者、家族にはもちろんの事、関係機関や外部の方にも感じていただけるように、日々対応に努めている。	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	◎	玄関、入り口正面に理念を大きく掲げてわかりやすく見える様にしている。	○	△	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	南予地区研修、法人内研修、相互研修等に積極的に職員全員が参加できるよう努めている。研修を受けたスタッフは翌月のカンファレンスの場において発表して周知を図っている。	/	/	/	法人代表者は月に2回程度事業所に足を運び、職員に声かけしている。内外研修は勤務として参加でき、育休などの子育て世代である職員が勤務を継続しやすくなるように夜勤回数にも配慮している。その他、人事考課制度を採り入れ、職員の思いを理解するように取り組んでいる。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	毎月1回スタッフの集まるカンファレンスの場において、テーマを決め担当スタッフが資料作成し説明したうえでスキルアップを図っている。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	全職員が目標管理シートを作成し、自己評価及び上司による評価及び面接を行っている。チーム目標、個人目標等を持つことによりやりがい、向上心につながっている。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	南予地区研修、相互研修には毎回スタッフが参加しており意識の向上やスキルアップに努めている。また、市のグループホーム連絡会の開催によりネットワークづくりが出来ている。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	管理者が必要に応じて面談を行い、職員の気持ちを聞き取っている。	◎	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	研修などを通して虐待防止について学び、月1回のカンファレンスの場において担当スタッフの説明により共有している。	/	/	/	虐待にあたる行為はない。基本的に不適切なケアをしない、という方針が研修会で意識統一されている。該当するケースがあった場合は管理者が指導し、再発防止できるようにし、家族から安全確保のための拘束等を望まれても正しく理解できるように伝える意向である。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	毎日、朝の夜勤者の申し送りの時間に利用者1人1人に合ったケアについて話し合っている。	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	全ての職員は虐待や不適切なケアを研修等で理解しており、不適切な事例に対しては本人と話し合い指導を行い再発防止に努めている。	/	/	/	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	職員とのコミュニケーションを密にし、疲労やストレスを察知できるように努めている。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	法人内外の研修において全職員が理解できるよう努めている。日常の業務の中からスタッフ間の相談を密に行っている。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	スタッフが集まる、カンファレンスや申し送りの場において利用者の具体的事例に基づいて話し合っている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	△	管理者やリーダーを中心に拘束をしない取り組みや工夫を提案し理解を図っている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	○	南予地区研修を通して制度についての理解を深め受講したスタッフより、ミーティングの場で資料を用いて周知している。	/	/	/	
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	対応が必要な利用者については、パンフレット等を用意しており体制を整えている。	/	/	/	
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	後見人制度を利用されている方もいて、面会もあり連絡は密に取れている。	/	/	/	
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	△	マニュアル不足	/	/	/	
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	△	全ての職員ではない	/	/	/	
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	ミーティングで報告しヒヤリハット記録、回覧し皆で再発防止に努めている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	ケアカンファレンスを毎月行い検討している。	/	/	/	
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	△	マニュアルはないが職員間での情報共有はできている。	/	/	/	
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	△	苦情は現在のところ有りません。	/	/	/	
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	△	苦情に対する対応は速やかに行っていきたい。	/	/	/	
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	意見箱への投書、介護相談員や職員への直訴	/	/	○	利用者には生活の中で意見を聞き、家族は意見箱の設置もあるが利用はなく、面会などの機会でも直接要望を聞くことが多い。管理者も日常の業務を共にする仲間であり、身近な存在である。気になる職員がいれば職員全体でサポートできるように管理者が働きかけている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	面会時に直接窺うか意見箱への投書。	◎	/	○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	面会や家族会などで周知している。	/	/	/	
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	月1回程度訪問し直接話を聞いていただける。	/	/	/	
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	職員ミーティングやカンファレンス朝・夕の申し送り等で徹底している。	/	/	◎	



愛媛県グループホーム 春の風

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	◎	全員で取り組むことが出来ている。ミーティングでも周知している。	/	/	/	主に運営推進会議でサービス評価の取組みを報告している。地域は高齢化が進んでおり、わかりやすい説明が必要だと気づきを持っている。今後の伝え方の工夫や、取組みのモニターとして見守ってもらう機能に期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	現状を理解し課題に対し一丸となって取り組んでいる。	/	/	/	
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	目標を設定し達成に向けて取り組んでいる。	/	/	/	
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	△	評価結果や目標達成計画は運営推進メンバーに報告できている。	○	×	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	△	目標達成計画や成果は事業所内会議で周知している。	/	/	/	
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	それぞれにマニュアルを作成し避難訓練の際に確認を行なっている。	/	/	/	訓練には毎回消防署の協力を得ており、地域住民との話し合いや訓練参加による協力・支援体制を確保している。海に近い立地であり、災害時のライフラインが断たれた場合、原発問題など、様々な災害に対して高い危機感を持った取組みとなっており、今後も地域と協力して訓練を続けて欲しい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	日勤帯、夜間帯を想定した訓練を行っている。	/	/	/	
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	消防設備は業者の点検、非常用食料などは賞味期限の確認をしている。	/	/	/	
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	◎	消防署が近い事もあり毎回の避難訓練に来所して頂き近所の方も参加できている。	○	○	○	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	△	県や市の防災訓練に参加する程度	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	○	家族会や運営推進会議、玄関のチラシによる広報活動	/	/	/	地域住民からの相談には柔軟に対応する姿勢を持っているが、相談支援の場としての情報発信や啓発活動はまだまだであると自己評価している。高齢化する地域での活動は期待が大きく、今後の取組みに期待したい。市や地域包括支援センターとは密な連携が取れていると実感しており、イベントなどの地域活動を協働しながら行っている。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	×	相談には応じているが働きかけまでは出来ていない	/	×	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	○	地域交流室をボランティア発表、会合など使い方は自由で開放している。施設見学も希望に応じている。	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	インターンシップや福祉体験の受け入れを行っている。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	地域のイベント参加依頼には応えられている。	/	/	○	



(別表第1)

## サービス評価結果表

### サービス評価項目

(評価項目の構成)

#### I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

#### II. 家族との支え合い

#### III. 地域との支え合い

#### IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!  
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
 ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー  
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

#### 【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町3丁目8-15
訪問調査日	平成29年12月14日

#### 【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 14名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	8名	

#### ※事業所記入

事業所番号	_____
事業所名	グループホーム春の風
(ユニット名)	2階
記入者(管理者)	_____
氏名	徳森 利弘
自己評価作成日	平成29年11月29日

<p>【事業所理念】 ここにはぬくもりがあり喜びがあり笑顔がある</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 ・看取り終了時に関わった介護スタッフを個別で話し合いの場を設ける ・看取りケアに関するパンフレットの活用をした介護スタッフ研修を行う。 ・看取り体験談をもとに情報交換し、今後の課題・解決を明確化していく事でスタッフの不安軽減を図る。 【結果】 看取り終了時に関わった介護スタッフの個別話し合いの場を早急に設け、現在は前向きに介護業務に努めて頂いている。スタッフの捉え方・その場の状況における介護スタッフの精神的不安等、ひとくりにできないものは個別に時間を設ける事で心のケアに努めた。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 事業所の母体は大洲市内で障害者支援施設を運営する社会福祉法人で、大きな法人組織の利点を活かし研修制度など職員が学ぶ機会を多く取り入れているため、職員は個々に認知症ケアに高い知識を持っている。利用者のその日その時その一瞬を大切にケアを行いたいという熱い心と、利用者の人生の最期までを温かい気持ちで包み込む優しさを感じられる事業所である。職員が個々に持つアイデアを今後の運営に活かし、地域のケア拠点として活躍が楽しい事業所である。</p>
--	---	---

## 評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I. その人らしい暮らしを支える									
(1) ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	入居者の日頃の発言や何気ない言葉を大切に、スタッフの気付きや情報収集したことをミーティングで情報交換し、暮らしの希望や意向の把握に努めている。	◎	/	○	日常生活を通じて利用者の希望を引き出せるように、できるだけ一人ひとりと対話する時間を持ち、「～だったよね」と反復しながら思いや記憶を引き出している。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	意志疎通の難しい人や、把握が困難な場合は、ご家族に相談したりカンファレンスや申し送りで、本人の視点を考慮した話し合いを設けている。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	◎	面会に来られた時や電話連絡をチャンスと捉え、本人の思いを話し合える時間を多く設けている。ご家族の面会がかなり多い為、機会は多く持っている。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	一日一日生活の記録を記載し、また徹底したい事等、連絡ノートも活用しながらスタッフ全員で共有化を図っている。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	スタッフの思い込みや決めつけにならない様、ミーティングの機会を大切に、様々な視点を考慮しながら話し合いを持っている。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	◎	ご家族・入居者はもちろんの事、面会に来て頂いた方や今までをよく知っておられたケアマネさんとの情報交換を密にし、生活歴や馴染みの暮らし方等を伺う事で、個々での暮らしがより良くなる様努めている。	/	/	○	利用者や家族、従前のサービス事業者からの聞き取りはもちろんであるが、何気ない行動やしぐさ、発言からこだわりを発見することも多く、その都度アセスメントを見直している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	入居者状況表に一日一日詳細を記入。心身の状態把握や新たにわかったことなどはミーティングやカンファレンスの際に話し合う機会を持っている。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	環境の変化や外泊・面会后に情緒不安定になられる方が多い事を把握している。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	日々の気になる言動・行動等、個人記録に記入し、把握に努めている。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	◎	入居者状況表を使用し、一日の過ごし方、変わった事等を記入し、日々の変化や違いについて把握している。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	面会や電話連絡の機会をチャンスと捉え、日々の様子観察に加えたアセスメントを実施。ご家族や友人からの情報を大切にしながらカンファレンスでも話し合っている。	/	/	○	家族から聞き取ったり日頃把握した情報をもとに、毎月のカンファレンスで利用者が必要としていることを利用者の視点で話し合うことができている。話し合いの内容は議事録で確認できる。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	その時々本人の心身状態に寄り添い、ご家族の協力も得ながら検討することを心掛けている	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	ご本人の思い・意向を傾聴しながら支援に努めている。またご家族とも密に連絡し合い、課題を明らかにしている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	ご本人の意向に沿ってプランを作成している。	/	/	/	毎月のカンファレンスで課題や日々のケアのあり方を話し合い、意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	ご本人・ご家族だけではなく、主治医や訪問看護師の意見も参考にさせていただいている。カンファレンスでは、スタッフそれぞれの意見やアイデアを出し合っている。	◎	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	入居者様の状態については、ご家族・主治医と連携し、報告・連絡・相談を徹底している。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	ご家族の協力体制は重要視しているが地域の人達の協力体制が盛り込まれた内容はやや薄い。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	毎月カンファレンスを行い、職員間での情報・計画内容を把握できる環境を整えているが、スタッフ理解度の差が見受けられる。	/	/	○	毎月のカンファレンスで介護計画の内容を共有し、業務日誌で最新の情報を常に確認しながら理解を深めている。毎月のカンファレンスでの状況確認や3か月ごとのモニタリングで確認を行い、日々の支援につなげている。支援した内容や利用者の様子、発言などを記録し、同時に気づきやアイデアを話し合い、前向きに取り組んでいけるように記録している。記録書式は事業所独自で改善しながら、使いやすいものを工夫して作成している。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	△	日々の記録とカンファレンスをもとにケアプランの評価をモニタリングとして行っている。スタッフ間で状況確認・改善策を検討し、日々の支援に繋げているものではあるが、毎日ではない。	/	/	○	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	◎	入居者状況・経過観察記録・個別記録を毎日記入し、暮らしの様子等すぐに分かる様になっている。	/	/	○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	入居者状況表・個別記録に記載している。また気づいた事や工夫等は、連絡ノートにて情報共有できるようになっている。	/	/	○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	計画通り行っている。	/	/	○	基本的に3か月毎のモニタリングで介護計画の見直しを検討している。毎月のカンファレンスで現状確認を行っている。利用者の入院などによる暮らしの変化に応じて、随時家族などと話し合いの場を設け、新たな介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	毎月、職員カンファレンスを行っている。	/	/	○	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	必要に応じて見直しを行い、現状に合った計画を作成している。	/	/	○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	毎月職員カンファレンスを行っている。毎日の申し送りも重要視しており、スタッフの情報交換は徹底している。	/	/	○	チームケアでの課題は毎月のカンファレンスで話し合っており、緊急案件があればその都度話し合いを行い、記録を取っている。参加できなかった職員も記録を確認し、押印して情報を共有している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	◎	発言しやすい環境づくりに取り組んでいる。考えを率直に話し合っている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	夜勤等で参加できない場合は、書面にて参加する事を義務付けている。事前にリーダーに意見等伝えており、話し合いが充実したものとなるよう努めている。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	会議録にて確認する事と変わった内容は個別にお伝えしている。	/	/	◎	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	連絡帳を作成。出勤時に目を通す事により、業の変更や支援内容が変更になった際にはいち早く情報が伝達できるように工夫している。確認した内容に印鑑を押している。	/	/	◎	利用者に関すること、家族とのやりとりなど、申し送りでの口頭伝達のほか、会議録、連絡ノートで伝達すべき内容を全職員に伝え、押印して情報を確実に共有している。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	個別記録に記入している。その中でも重要な事は日誌に記入し、全職員に伝わる様に徹底している。連絡帳も活用している。	◎	/	/	



項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	ご本人の意向、その日の心身の状態にあった支援をしている。	/	/	/	利用者のその日の暮らし方について、強制的に誘導するのではなく、一つ一つの場面で意向を伺うようになっている。また、利用者が事業所での生活を通じて楽しみを見いだせるように声かけや雰囲気づくりを行っている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	声掛けの工夫をし、自己選択できるように努めている。	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	ゆっくりと関わりを持ち、傾聴しながらご本人の意向を確認していくことで、納得して暮らせるような支援を常に模索している。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	×	二人介助で対応しないといけない方は、遅出勤務時間終了までに就寝準備を行っている。ご本人とご家族希望確認の上、ここでの暮らしを継続させていただいている。	/	/	/	
		e	利用者の生き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	ボランティアに来て頂いた方との交流。また日々の余暇活動では何がしたいか尋ねを行っている。言葉かけの工夫により場を盛り上げている。	/	/	○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	意思疎通が困難な方でも、表情やしぐさの変化等で、痛い・しんどい・不快がある等の言葉にならない思いがくみ取れる様、気を付けており、スタッフ間での情報共有を行っている。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	ご本人の意思を尊重し、たとえ失敗などされても傷つける事のない様に、「言葉選び・常に笑顔」の対応を心掛けている。	◎	◎	◎	「利用者は人生の先輩である」ということを基本的な考えとして持ち、毎月のカンファレンス時に勉強会を取り入れて学んでいる。当日の声かけの様子は優しく、丁寧であったが、時には慣れによる言葉遣いの荒さが気になることもあり、管理者が声かけを行って気づきを持つよう留意している。居室は利用者の専有の場所である理解ができおり、「お部屋に入らせてもらいますね」と声をかけている様子が見られた。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	△	配慮しながら行っているが、入居者の難聴による排泄の声掛けは目立つことが多い。	/	/	○	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮ながら介助を行っている。	○	排泄の失敗でも、後に嫌な気持ちが残らない様な対応を行っている。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専有の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	ご本人に一声かけてからの出入りを行っている。	/	/	○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	法人全体で気をつけている。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けってもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	お手伝いをして頂いた時には、感謝の言葉を伝えている。「何か手伝おうか？」とお言葉を良く頂いている。	/	/	/	他利用者の様子が気になる利用者の発言によって、場の雰囲気が悪くなる前に配席や職員が間に入るといった介入で利用者同士の関係が円滑になるように配慮している。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	不安を訴える方へ、他の入居者が優しい言葉をかけられている様子を見ると、心の温かさを感じる。また、お互いに必要とされる存在としての関係づくりをスタッフが理解している。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	日々の心身の状態に合わせ、トラブルが未然に防げるように細心の注意を払っている。また、環境づくりがさりげなく行えるスタッフが多い。	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	トラブルの際には急速に対応し、再発防止に努めている。また、ご家族にも相談させていただいている。	/	/	/	



項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	ご家族からの情報収集に力を入れている。ご家族の何気ない発言や面会の方の何気ない話から、今までの人間関係がわかることが多い。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	ご本人との会話や、ご家族からの情報収集にて把握・共有している。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	地域の行事やドライブに出掛けている。また、ご家族や親戚の方・ご友人が面会に来ていただけた際は、また来ていただけるように接待に留意している。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	ゆっくりと話しをして頂ける雰囲気作りをし、職員は温かく受け入れている。ご家族や知人の面会が多くある。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	戸外に出掛けられる様に取り組んでいるが、遠方まで行くことはできていない。GHの立地条件が良く、周辺の散歩がしやすい環境である。気候のいい時は散歩に出かける機会を持っている。	○	○	○	地域住民からも日常的に散歩する様子を微笑ましく見守っているという意見もあり、戸外に気軽に出かける様子が感じられる。重度の利用者も、室内だけでは感じられない気温の変化や景色の移り変わりを味わい、何より日光を浴びることを大切に、テラスで過ごす時間を日常的に設けている。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	△	地域交流室を併設しており、読み聞かせや民謡などボランティアの方に来て頂いていることが多い。外出支援はご家族かスタッフのみの対応である。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	気候のいい日は車椅子にて近所を散歩し、気分転換を図っている。	/	/	○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	自宅外泊や遠方への外出の際は、ご家族に協力を得ている	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	様子観察を行い、変化があれば記録している。職員間での情報共有・話し合いを行いながらより良いケアが行えるように努めている。BPSDへの理解に関しては、スタッフによる理解度に差はあるが、いろいろ模索しながらより良い対応に心掛けている。	/	/	/	できる、できそうな生活動作は一緒にしましょうという姿勢で、過度な介助を行わず共に楽しみながら支援している。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	毎日行っている体操やレクリエーションの中で、機能訓練を視野に入れた援助に力を入れている。状態の変化は記録に残し、スタッフが情報共有するとともに、主治医や訪問看護師への相談も行っている。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	体操やレクリエーションの中で身体状況の変化を把握したり、日常の生活の様子を観察することで「できること・できそうなこと・やりたいと思っていること」を把握しながら、環境づくりに努めている。また、個別に適した「一緒に行ったり見守ったり」を行うようにしている	◎	/	◎	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	◎	ご家族からの情報や生活歴・ご本人との会話等から把握することも多いが、日常の様子から把握し、成功例をつくることもある。	/	/	/	利用者の中には自分のペースで暮らしの中で趣味の時間を楽しむ人もいたり、食事前の挨拶を担当する利用者、家事を率先して行う利用者もいる。利用者の得意なことを見つけながら、発揮できる場面を提供できるように配慮している。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	個々にできることを把握し「必要とされる喜び」や「できることがある喜び」を感じ続けられるように取り組んでいる。	◎	○	◎	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	○	生活の中で出来る事・出来そうな事を見つけ、その力を引き出せる様に支援している。地域の行事に参加したり、地域の文化祭に作品を出したりしている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	◎	以前から愛用されているブラシや化粧品を使用して頂き、本人の個性が維持できるように支援している。				身の回りのことを自分で行う人にはやってもらい、できないことを支援することが自然に行われている。衣類の汚れがあった利用者をさりげなく居室誘導し、清潔に身だしなみを整える様子が伺えた。散髪や衣替えは家族に協力してもらいながら支援している。重度の利用者も起床時には必ず整髪し、衣類に汚れはないか注視し、着替えが必要な場合はその都度対応するなど、清潔保持に努めている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	可能な方は入浴の着替えなどを選んで頂き、スタッフと一緒に準備を行っている。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	声掛けにて本人の意見を尊重しながら、その時に合った物を身に付けて頂ける様に支援している。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	季節に応じた衣替えを行っている。「家族の役割」として、定期的に衣類のチェックや衣替えをしていただけるご家族も多い。好みの服装を楽しめるよう、ご家族協力依頼をする場合もある。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	起床時に洗顔や身だしなみの声掛けを行っている。個別で都度対応している。	◎	◎	◎	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	今まで利用していた美容室を利用される方もいらっしゃる。GHに訪問していただく理容師さんに依頼・希望される場合が多い。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	◎	重度な状態にあっても、スカーフでおしゃれを楽しんだり美白対策に留意するなど、個別の支援を行っている。			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	体調管理の中でも最も重要なのは「食」であり、大切な時間として認識している。				献立は法人の栄養士が旬のものをふんだんに取り入れて作成している。食材は地元の商店を利用し、おやつなどの購入は利用者と同じで購入し、調理は経歴の長い調理員を配置し、減塩食や糖尿病食などへの対応や咀嚼や嚥下の状態に応じた形態の工夫まで細やかな配慮があり、普通食と同じように見栄えよく盛り付けられている。つくしのはかま取りなどの下ごしらえなど、できることを一緒に行っている。入居時に利用者の好みや鯖などのアレルギー等を把握して代替食材で対応したり、びわなどの季節の果物や旬の食材を取り入れている。こだわりの食器等を取り入れながら自由に使うことができる。職員は利用者の食事のペースを見守り声をかけたり、介助を行っており、食事は別にとっている。重度の利用者も他利用者と食事の準備をリビングで楽しみに待っている。献立のバランスなどは利用者の好みに応じてアレンジしたり、食に関するアドバイスを法人の栄養士に相談している。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	△	土曜・日曜以外は調理師が作っている。片付け(食器拭き・台ふき)等は、楽しく手伝っていただいている。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	△	食事は一緒に作ることは殆どないが、一緒におやつ作りをする機会を設けている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	好きな物・苦手な物は把握している。食べられない物は代替え食を作っている。体調面での減塩・カリウム減等の必要のある方には十分な配慮を行っている。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	GHで育てた枝豆を食事に添えたりスタッフが持ってきた栗を利用した栗ごはんを作るなど、季節を楽しめるよう工夫している。柿やみかん等、季節のものをご家族が持ってきてくださる場合もあるので、食事やおやつに取り入れるようにしている。			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしいような盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いんどりや器の工夫等)	○	ミキサー食の工夫・刻みの工夫を都度行っている。美味しく見える盛り付けにも工夫している。「スチームコンベクション」を厨房に設置し、形を残した柔らかい食事の提供・安全性にも留意している。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	昔から馴染みの物がある方は利用していただいている。本人の状態にあった食器を提案することもある。			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	スタッフは食事を別に摂る事が多い。自力摂取できる場所までは様子を見ながらとし、必要に応じて介助を行っている。エプロンを使用している方もいらっしゃるが、食事前に使用してもいいかを確認させていただいている。			△	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	食事前にメニューの話題をするなど、食事が楽しく摂れる様な会話をしている。	◎		○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	無理なく摂れる量を把握し、一人一人の状態をチェックしている。体調や状態によって、補助食や代替え食を利用する等、工夫している。				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	食事を一度に摂れない方には、栄養ゼリーや食べたい物で補っていただけるよう支援している。その方にあった時間で、食事を個別に提供している事もある。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	△	法人の栄養士が考えたメニュー表を使用している為、栄養面では十分な配慮がなされている。高齢者には好まれないメニューは変更することもある。			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	台所周辺の清潔保持を心掛けている。調理師に調理をしていただくことで、衛生管理・食材管理は徹底されている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	1日3回の口腔ケアに努めている。嫌がられる入居者に対してもタイミングを見て対応をしたり声掛けの工夫をする等、考慮している。	/	/	/	毎日口腔ケアの実施を確認し、義歯の不具合や口内炎などの訴え、発見があれば早期に歯科往診が受けられるように手配している。毎食後、歯磨きの声かけをして、できる人にはしてもらい、できないことを介助して口腔内の清潔保持を行っている。今後はセルフケアできる人も含めた利用者全員の口腔内の健康状況の確認を定期的に行い、より深い理解につながることを期待したい。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	口内炎の状態等、歯科医に相談している。	/	/	○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	歯科医より助言をいただいたり、必要な場合の歯科医往診を依頼している。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	週に2回、ポリデント洗浄を行っている。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	うがいが困難な方には、口腔用のスポンジで口腔内に汚れが残らない様につけている。	/	/	○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	○	毎食後口腔ケア・週に2回ポリデント洗浄を行っている。必要時にはご家族に報告・相談後、歯科医に往診を依頼している。	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	△	できる限り、できる方法を考え、立位困難な重度の状態にある方でも、2人介助でトイレでの排泄に努めている。	/	/	/	排泄パターンに応じた声かけや誘導を行い、トイレでの自然排泄を基本に支援している。利用者の排泄の訴えに最大限対応してあげたいと、夜間のみパッド交換し、日勤帯から遅出の時間帯には懸命に利用者の意向に応え、排泄用品の必要性や適切性に関し、利用者や家族を交えた話し合いを行っている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	△	スタッフは毎日排便チェック表を確認し、排便コントロールを行うようにしている。体調不良・精神不安定・腸閉塞等の影響があることを理解しているが、理解度には差がある。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	記録を参考にし、1日の排尿排便回数、有無やパターンがわかる様に工夫している。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	できる限り、できる方法を考え、立位困難な重度の状態にある方でも、2人介助でトイレでの排泄に努めている。本人の状態に合った紙パンツ・パットを検討することもあり、購入にあたってはご家族相談のもと、購入する運びとなっている。	◎	/	◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	カンファレンスや申し送りなどで、報告・相談している。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	トイレに行かれた時間・有無を記録に残している。尿意・便意の認識が難しい方は、早めにトイレへの誘導・声掛け・対応をしている。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるように支援している。	△	意志疎通が困難な方は、カンファレンス等で話し合っている。ご家族にも相談し、了解を得た上で購入・使用している。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	昼用・夜用・外出時用と使い分けている。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	水分摂取がなかなか進まない方も、ゆっくりと本人のペースで飲める様に工夫している。お茶での水分補給が難しい方は、本人の好みの飲み物を準備している。甘酒やヤクルトなどの乳酸菌等・キウイ等を取り入れている。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	△	入浴曜日が一応決まっているが、2階には一般個浴が設置しており、個別支援をする事もある。	◎	/	○	概ねの利用時間帯があり、利用者の希望に沿いながら入浴支援している。利用者個々の好みに合わせたシャンプーなどを使用して、利用者が心地良く入浴できるよう配慮している。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	本人の体調に合わせて入浴して頂いている。個別介助を行いゆったりと入浴して頂けるよう工夫している。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	着脱や洗髪・洗身等、声掛けの工夫をする事で自分で行える事はして頂いている。見守り・声掛けは必ず側近にて行っている。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	○	入浴を別日にしたり、入浴されていない方はタイミングを見計らって、清拭・更衣にて対応することもある。会話をしながら足湯を行う等工夫している。入居当時、拒否の強い入居者に対しては、ご家族の協力を得たこともある。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	毎朝バイタル測定している。血圧が高かったり低かったりした時は居室静養して頂く。入浴前にもう一度バイタルを測り、入浴できるかどうかを相談・判断している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	入居者状況一覧表で、睡眠パターンは一目で見てわかるようにしている。一人一人自由に休めるが、昼夜逆転しないように工夫している。	/	/	/	眠りの浅い利用者もいるが、日中の過ごし方や身体面や精神面の様子を見守り検討しながら、利用者個々のリズムを重視した支援に努めている。必要に応じて主治医に相談している。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	△	日中になるべく活動して頂き、昼夜逆転しない様に注意している。夜間眠れない時は、会話をするなどして落ち着いて頂ける様にしている。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	◎	日中はなるべく活動して頂くように努めている。不眠による危険の高い方や体を害する程の状態が見られる際には、主治医に相談しているが、BPSDにつながる心的要因や環境・背景を考えるように心がけている。	/	/	○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	希望のある方や必要のある方は、食後やおやつ後に居室静養して頂いている。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	◎	行事や面会のお礼を伝えるため、入居者本人からご家族に電話ができるように支援している。驚きとともに喜びの声をいただいている。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	◎	重度な状態にある方でも、少しでも声が家族に届けられるようにタイミングをみて援助している。発語が促せるような練習をしてからかける援助をしている。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	希望のある場合はスムーズに対応できるようにしている。ご家族との情報共有の機会として大切に捉えている。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	届いた手紙などは読んで一緒に話ししたり、お便りの返事を出せるように工夫している。手紙が書けない入居者は電話での交流にしたり、代わりにスタッフがお便りを出したりしている。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	電話や手紙は家族によって個人差はあるが、こちらからアクションを起こしていくことでご家族も気にかけていただけるようになってきている。喜びの電話を折り返しただけだったこともあった。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	△	所持金はご本人・ご家族の希望にて対応している。金額はご家族・本人・スタッフが確認した上で個別に持っておられる方もいらっしゃる。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	△	希望があれば買い物など一緒に行くようにしている。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	△	買い物に行く機会はあまりないが、地域の方は理解を示してくださっており、地域のお菓子屋さんに出向くこともある。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	△	お金については、ご本人やご家族と相談しながら本人の希望に沿えるよう支援している。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	△	ご本人様の希望や様子などを報告・相談している。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	希望により、個人預り金としてGH金庫で預かり、管理している。毎月の請求書を送る際に、出納帳のコピーを必ず同封させていただいている。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	◎	こまめにご家族と連絡をとり、報告・相談を行っている。ご家族の協力が必要な時はお願いしている。	◎	/	○	受診に関する支援や、自宅が気になる利用者の代わりに自宅の写真を撮ってくるなど、利用者や家族のその時々ニーズに柔軟に取り組む姿勢を持っている。



項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
(3)生活環境づくり										
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	玄関口までスロープと階段が設置されており、建物の周りには植込みがあり緑を多く取り入れている。	◎	◎	◎	事業所は住宅地にあっても違和感ない建物で、周囲になじんでいる。植木をキレイに刈り込んだり、庭の手入れが行き届き、気軽に立ち寄りやすい。	
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	◎	ベランダには花を植えたり、壁画で季節感のある物を飾った雰囲気作りを心掛けている。	◎	◎	◎	感染症対策も兼ね、空気清浄や湿度管理に配慮している。毎日清掃を丁寧に行っており、床やガラス窓など細部も清潔にしている。毎月季節感ある壁画を利用者と工夫して制作している。	
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	毎日掃除・換気し、気持ちよく過ごせる様に心掛けている。	/	/	/		◎
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	カーテンや窓を開けたり閉めたり、季節によって外気浴も行っている。四季折々の花や植物を飾るなど、居心地良く過ごせるよう工夫している。	/	/	/		○
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	◎	リビングではテレビを観られたり、入居者同士お話をされたり、いつでも自由にされている。1人になりたい時は居室に戻られる等、自由である。	/	/	/		/
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	◎	トイレや浴室にはドアがあり、共有空間からは内部が見えないようになっている。	/	/	/		/
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	◎	居室は本人が使い慣れた物や、思い出のある品を持って来てもらっている。生活に支障がないように工夫して安全に気をつけている。	◎	/	○	居室内の換気、温度、湿度の管理にも配慮し、使い慣れたものを自由に持ち込んでもらい居心地良く過ごしてもらっている。	
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	◎	一人一人出来る事はして頂き、安全で自立した生活が送れるよう状態をみて工夫している。	/	/	○	移動が安全に行えるよう環境を整備し、機能が維持できるように努めており、できることやわかることには過度な介助を控え、利用者自身でもらっている。	
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	衣類や個人の持ち物など、名前をしっかりと確認して間違いのないように心掛けている。	/	/	/		
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	△	その時その時で職員が声かけをして、いつでも一緒に新聞たたみや洗濯物たたみ、お掃除など出来るように置いている。	/	/	/		
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	△	夜間帯以外は鍵をかけず自由に動けるようにしているが帰宅願望が強くなり、不穏がみられやむをえない状態の時のみ使用する。	◎	x	○	鍵をかけないケアについて学びの機会を設け、理解に努めている。玄関は夜間帯のみ施錠し、日中は自由に出入りできる。不穏な状態が強いなど必要に応じた施錠は家族に理解も得ている。	
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	家族様には安全確保の為の対応など、話し合いをしている。	/	/	/		
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	◎	施設内は自由に過ごされている。玄関には感知式のセンサーを設置している。	/	/	/		

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	◎	入所前のアセスメントシートやケアマネの情報で把握している。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	毎日バイタル測定を行い、利用者様の体調に気をつけ個人個人の記録を細かく行い、職員間で情報が共有できるようにしている				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	毎日バイタルチェックをし、気になることは主治医や訪問看護師に報告・連絡・相談をしている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるように支援している。	◎	ご本人やご家族が希望するかかりつけの医療機関や専門の医師に受診できるように支援している。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	ご本人やご家族が希望する医療機関や医師に受診できるように支援している。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	受診結果の情報も、ご家族より報告が行われている。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	入院の際には出来るだけ多くの必要と思われる情報提供を行っている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	入院時には職員が面会に行き、病院関係者と情報交換等を行っている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	△	入院された病院には連絡をとり、地域連携室との連携を図っている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	日常の関わりの中での変化や気づきは、毎日職員間で情報共有したり、主治医に連絡したり、訪問看護師の週一回の訪問にて、状態報告し、相談している。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	主治医には24時間連携が取れるように対応している。週一回の訪問看護にての対応・連携を取れるようにしている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	毎日のバイタルチェックから始まり、状態の変化に早期に気づき主治医に早めの相談にて指示を仰いでいる。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	薬の変更などや薬処方時には、薬チェックを行い、個々の内服薬を把握できるように努めている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	名前をすべて平仮名にし、誤薬防止の為、職員同士確認しながら声に出している。朝・昼・夕内服されているかチェックを行う。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	内服薬によつての副作用などをチェックし、あれば主治医に連絡し相談している。内服薬の変更があった場合は変化に気づけるように職員間で情報共有している。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	毎日の介護記録や日誌を記入し状態変化に早く気付けるようにし、変化があれば主治医に情報提供している。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	状態に変化があった場合には、ご家族へ連絡し説明している。状態の段階により主治医や家族との話し合いの場を持つようにしている。	/	/	/	利用者や家族に終末期のあり方について意向を伺っている。最後は自宅で迎えたいという利用者や家族の希望を叶えた支援が行われたケースもある。状態に応じた話し合いの場を設け、方針を共有しながら支援し、利用者の最期に揺らぐ家族の精神的サポートの重要性も実感している。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	病状や医療に関する事などは、主治医から家族に説明していただき、方針については当施設で出来る事への理解をしていただき、家族・本人の要望に沿えるようにしている。	◎	/	○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかを見極めを行っている。	△	日々、職員の思いを確認している。職員により、どこまでの支援ができるか仕事への取り組みなど見極めが出来ればと思っている。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	入居契約の時点で、話しはしているが、現実的にならないと理解できない人が多く、状態の段階によって適宜、説明を行っている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	状態の変化をこまめに伝え、家族や主治医との連携を取りながら、チームで支援していく体制を整えている。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	家族が面会に来られた際、少しでも話をする時間をとり、不安に思っている事はないかなど聞くようにしている。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	◎	発生しやすい時期には、手すりや手に触れる物に消毒(次亜塩素酸)を行う。仕事前には体温測定。マスク着用。出勤時・退社時は手洗い、うがいを徹底している。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	◎	マニュアルを作成している。感染症(嘔吐)時など必要な準備物等をそろえている。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	発生状況などの情報を入手し、全職員に伝え対策している。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	学校や保育園からも情報収集し、発生状況によれば面会をお断りする事もある。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	出勤時・退社後には手洗いうがいをしている。入居者の方には、職員が声かけにて対応している。来訪者には、玄関先にて手指消毒をしてもらっている。	/	/	/	



項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>II. 家族との支え合い</b>									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	◎	家族面会時には入居者の方の情報収集だけではなく、日常生活での様子など含めて会話している。	/	/	/	家族会や事業所行事への参加を呼びかけ、家族が活動を共にする機会を設けている。担当職員が毎月お便りを送付し、来訪する機会が少ない家族にも事業所での生活を具体的に伝えるよう配慮している。運営上の事柄はその都度報告し、担当職員の異動は個別に伝えている。家族の面会時には声かけをし、要望などが気軽に発言できる関係を大切にしている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	◎	面会時には、お茶・コーヒーを出し、ゆっくりとした時間を過ごしてもらえるよう居室で過ごして頂けるように努めている。近況報告もしている。	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	行事やイベント前には、家族に連絡し参加して頂けるよう声かけをしたり、お便りに書いたりしている。	◎	/	○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	月始めに出している請求書と一緒にお便りを添えて近況報告などしている。1年ごとに写真・アルバムを作り家族に見て頂いている。	◎	/	○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	○	本人に有った細かい出来事をお伝えし、報告だけで終わらせずに何か要望がないか聞いている。	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	認知症が進行している事や、以前より出来なくなった事など説明している。	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	家族の方へは、面会の際に報告している。また、お便りでの報告もしている。運営推進会議で民生委員や他施設の協力をお願いしている。	○	/	○	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	◎	1年に2回、家族会を開催したり、イベント・行事等の声掛けをしている。面会時、話しやすい環境・雰囲気作りにも努めている。	/	/	/	
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	○	職員同士で情報を共有し、リスクや職員間での決め事・対策などは家族の方にお伝えしている。	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	面会時等に家族に要望・意見などを伝え相談している。定期的な連絡など積極的に行っている。	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	契約時にはご家族様に不安のないように丁寧に説明し、ご理解して頂いている。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	長期入院となった場合、契約上退所の対象になることもあるので、納得していただけるように、受け入れ先の情報提供等を行い、説明している。	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	ご家族来所時、料金の内訳を説明、もしくはお電話をしてから文書を送付し、同意書を返送していただいている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>Ⅲ.地域との支え合い</b>									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域:事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	◎	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催し理解を図っている。	/	◎	/	自治会の区長が世話役となって地域行事に参加したり、日常的に事業所周辺地域の散歩に出かけることで顔なじみになったり、庭の花の観賞に誘われる気軽な近所づきあいができている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	地域の行事など、ご利用者様と一緒に参加したり、事業所の催し物にも参加していただけるよう働きかけをしている。	/	○	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	日頃の日常的な挨拶や会話など、気さくに声をかけて頂いている。	/	/	/	
		d	地域の人々が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	行事にも案内し、参加して頂いている。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	ご利用者様との散歩時など挨拶や会話など行っている。地域の方が自由にご利用していただくよう働きかけ、地域交流スペース「ひだまり」を開放している。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	◎	音楽療法・大正琴・読み聞かせ等、ボランティアの方に来て頂いている。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	ボランティアの受け入れ・継続出来ている。学校関係の体験も受け入れ、余暇活動等一緒に楽しんで頂いている。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	地元のお店に買い物に行ったり、お誕生日の利用者と一緒に地元の飲食店に外食をしたり、関係が途切れないようにしている。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	◎	地元の民生委員・市の職員、ご家族様に参加して頂いている。	×	/	△	運営推進会議は利用者や家族、地域住民に参加を呼びかけ、毎回参加協力を得ている。参加する家族が固定化しており、取組みが伝え切れていない。幅広い参加者の協力を得て、会議の意義や様子を具体的に伝える工夫が必要だと気づきを持っており、今後の取組みに期待したい。会議では現況報告のほか、地域の情報交換など有意義な話し合いの場となっている。出された意見や情報を運営に反映することで活かしている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	◎	月々の行事報告や、ヒヤリハットの報告、取り組み内容等、会議の際、お伝えしている。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	◎	会議で出された意見等は、カンファレンス等の会議や回覧にして報告し、今後のサービス向上に活かせる様に話し合っている。	/	○	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	早めの日程調整を行い、参加できるように努めている。	/	/	◎	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	◎	誰でも閲覧出来るよう、議事録を公表している。	/	/	/	



項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>IV.より良い支援を行うための運営体制</b>									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	◎	日々の業務において、理念に沿った支援ができるように一日も早く、ご利用者様と信頼関係が築けるよう、また安心して生活して頂けるように努めている。	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	玄関に大きく掲示している。	○	△	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	◎	地域密着型サービス協会の研修に積極的に参加している。また法人の勉強会に参加したり職員カンファレンス時に勉強会を行ったりしている。	/	/	/	法人代表者は月に2回程度事業所に足を運び、職員に声かけしている。内外研修は勤務として参加でき、育休などの子育て世代である職員が勤務を継続しやすくなるように夜勤回数にも配慮している。その他、人事考課制度を採り入れ、職員の思いを理解するように取り組んでいる。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	△	新人職員しか実施できていない為、継続して取り組みを行う必要がある。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	目標管理シートを使って、個々の努力や実績等、上司に報告している。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	相互研修やグループホーム連絡会に参加して、情報収集をして職員のスキルアップに努めている。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	腰痛予防やストレスに対する研修を開き、介護職員の負担軽減に努めている。	◎	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	高齢者虐待についての研修に参加し、参加した職員が職員カンファレンス等の場で研修報告を行っている。改めて考える機会を設けている。	/	/	/	虐待にあたる行為はない。基本的に不適切なケアをしない、という方針が研修会で意識統一されている。該当するケースがあった場合は管理者が指導し、再発防止できるようにし、家族から安全確保のための拘束等を望まれても正しく理解できるように伝える意向である。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	◎	月に1回の職員カンファレンスにて、各階の状況等を報告し合っている。また適宜研修報告も行っている。	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないよう注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	職員同士で注意を払い業務にあたっている。身体的変化の早期発見など、その都度報告し合い適宜、話し合いの場を作っている。	/	/	/	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	職員の疲労やストレスが溜まっていないか注意を払っている。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	常に職員間で話し合い、行動を抑制しないケアを実施できるように工夫している。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	職員カンファレンスなどで、状況に合わせて話し合いを行っている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	拘束をするという事で、どういった弊害が起こるのか重要性等を、ご家族様に説明し、理解を図っている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	○	研修など、機会あるごとに参加し、理解を深めている。	/	/	/	
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	必要時に行っている。	/	/	/	
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	入居当時より、成年後見人制度を利用されている方が1名いらっしゃる。他に必要と思われる方は、現在の所いらっしゃるが、情報収集はしている。	/	/	/	
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	◎	緊急時対応マニュアルを作成し、常に見える場所に掲示している。今までも活用できており、スムーズな対応が可能となっている。	/	/	/	
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	△	応急手当講座に参加し、職員に研修報告を行っている。	/	/	/	
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	都度、起こった要因を追及し検討する等して、再発防止に努めているが、同じような事故やヒヤリハットが起こった事例がある。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	◎	移動可能なセンサーや音感知センサーを利用する様になった事例がある。	/	/	/	
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	△	苦情対応マニュアルは作成していないが、スタッフ間での報連相を密に行い、ご意見には早急に検討・対応している。	/	/	/	
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	市町等に相談するような苦情はまだ受けた事がない。些細なご意見を大切に、苦情につながるまでに検討・対応している。	/	/	/	
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	◎	1つ1つの面会の機会・来所の機会を大切に、ご意見を伺う事で、より良い改善に繋いでいけるようスタッフにも周知。早急な対応・回答が出来るように努めている。	/	/	/	
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	◎	意見箱は設置してあるが、利用者は個別に伺う機会を作っている。日々のケアの中で伺う方が、より意見が出やすい。	/	/	○	利用者には生活の中で意見を聞き、家族は意見箱の設置もあるが利用はなく、面会などの機会でも直接要望を聞くことが多い。管理者も日常の業務を共にする仲間であり、身近な存在である。気になる職員がいれば職員全体でサポートできるように管理者が働きかけている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	◎	意見箱を設置してあるが、面会や来所の機会に伺う事の方が多くある。	◎	/	○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	△	利用者の状態の変化がみられ、想定できる苦情やご意見が考えられる場合には、情報提供を都度行った事がある。	/	/	/	
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	法人本部と少し離れている為に、状況を気にして下さる姿はみられる。	/	/	/	
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	「利用者によりよい支援ができるように」と、ケア目標をかかげ、スタッフにも伝えている。意見が言いやすいのは、管理者の雰囲気といえる。	/	/	◎	



愛媛県グループホーム 春の風

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	定期的に自己評価シートを行う機会がある。又、外部評価も、よい機会となっている。	/	/	/	主に運営推進会議でサービス評価の取組みを報告している。地域は高齢化が進んでおり、わかりやすい説明が必要だと気づきを持っている。今後の伝え方の工夫や、取組みのモニターとして見守ってもらう機能に期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	毎月のカンファレンス、スタッフ会の機会を活用し、課題を学習の1つとして、年間研修に組み込んでいる。	/	/	/	
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	開設より3回の外部評価の機会に、課題が明らかになった時点で、事業所全体で取り組んでいる。	/	/	/	
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	△	運営推進会議メンバー、家族等には報告しているが、運営推進会議に出席していただく、高齢福祉課の方だけで、市町、支援センターには直接連絡していない。	○	×	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	◎	必要な時期に、議題としてあげたり、取り組みを報告している。	/	/	/	
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	災害時の避難経路や場所は確認できているが、緊急時にライフラインが途絶える中での認知症ケアに心配がある。	/	/	/	訓練には毎回消防署の協力を得ており、地域住民との話し合いや訓練参加による協力・支援体制を確保している。海に近い立地であり、災害時のライフラインが断たれた場合、原発問題など、様々な災害に対して高い危機感を持った取組みとなっており、今後も地域と協力して訓練を続けて欲しい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	◎	2ヶ月に1回、避難訓練を計画・実施している。想定はさまざまな時間や状況としている。	/	/	/	
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	定期的に行っており、非常食体験も点検を兼ねて行っている。	/	/	/	
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	避難訓練には地域住民や消防署、家族の参加が積極的にある。消防団員の施設見学がやっとなり、色々な意見をいただいた。	○	○	○	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	×	地域の訓練には参加した事がないが、万が一の災害時に、地域の方にも非常食が提供できるよう備えには力を入れている。	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	○	当事業所は、地域のお祭りや行事に参加したり、中学校の職場体験の場として、提供したりしているが、研修講師等は、法人のケアマネがして下さっている。	/	/	/	地域住民からの相談には柔軟に対応する姿勢を持っているが、相談支援の場としての情報発信や啓発活動はまだまだであると自己評価している。高齢化する地域での活動は期待が大きく、今後の取組みに期待したい。市や地域包括支援センターとは密な連携が取れていると実感しており、イベントなどの地域活動を協働しながら行っている。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	まずは「利用者の家族への相談支援」に力を入れている。家族の友人からの相談を受けたことがある。	/	×	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	○	閉ざされた施設ではなく、地域の方にも活用していただける、地域交流スペースを設け、事業所を開放している。	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	中学生の職場体験・高校生のインターシップの協力をさせていただき、福祉体験を通して、興味を持っていただけるよう努めている。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	△	地域のイベントに参加したり、学校との連携を図る等し、交流は大切に思っているが、地域活動の運営協力は十分にできていない。来てもらう事が多い。	/	/	○	